

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300407		
法人名	社会福祉法人 一仁会		
事業所名	グループホーム天王園		
所在地	山口県周南市大字大河内1109-2		
自己評価作成日	令和3年5月21日	評価結果市町受理日	令和3年10月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
調査実施日	令和3年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①毎月様々なボランティアの方が来られ、音楽セラピーや押し花教室も開催②地域の幼稚園や小学校の運動会への参加、小学生との交流会、中学生の福祉体験、高校生の職場体験等で地域の方との交流を大切にしている③ボランティアの協力もありほぼ毎月外出をして季節を感じてもらえる④クックチル調理法による個人に合わせた食事形態の提供⑤委員15名による2カ月毎の運営推進会議と身体拘束適正化委員会会議開催⑥食器洗い、洗濯物たたみ等自分のできることを生かした生活⑦年2回(6月・12月)の家族会の開催⑧毎日の健康体操や楽しめるゲーム等の提供⑨医療面は法人の看護師に相談でき、医師の診察も園内でできる⑩同一敷地内特養、デイサービスの演芸などの慰問の参加⑪グループホームだより(年4回)の発行と天王園新聞(毎月)への掲載⑫毎月お手紙でご家族に入居者の様子を報告し、また毎月ご家族が支払いに来られた際状態報告ができ意向等の意見交換もしやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの身体状況に合わせた形態で栄養バランスのとれた食事を提供され、全国各地の郷土食や季節の行事食、誕生日のお祝い膳、職員と作る昼食会、おやつづくり、お茶会、畑の玉ねぎを収穫して味噌汁の具にするなど食事を楽しむ機会を工夫されています。全職員が応急手当や初期対応の実践力をつける琴を目標に掲げておられ、職員会議を利用したの演習に取り組まれています。モップがけやゴミ袋づくり、ゴミ袋の名前書き、食事のメニュー書き、カーテンの開閉、コップ洗い、花の世話、野菜の収穫など利用者一人ひとりが活躍できる場面づくりを行い、張り合いのある生活を支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所とホールに掲げており、また毎月の職員会議の前に全員で唱和して確認し意識付けをして実践につなげるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事務所とホールに掲示している。毎月の職員会議の前に全職員で理念を唱和して確認し、日々の業務の中で理念にたちかえり、実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5団体のボランティアの訪問がある。地域の幼稚園や小学校の運動会に参加。小学生との交流会(七夕まつり)、中学生の福祉体験、高校生の職場体験等で地域の方と交流している。	コロナ禍で地域行事、学校行事、ボランティアの訪問が中止となり、地域の人との交流の機会が持てていない。施設内の散歩時に面会に来た家族と挨拶を交わしている。地域のボランティアには、運営推進会議時に近況を伝える他、暑中見舞いや年賀状を出して関係づくりを継続し、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や実習生、運営推進会議に参加されされている方に認知症の理解と支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で評価の意義を理解してもらい、全員で自己評価を記入し、管理者がまとめている。評価が出たあと目標達成計画を立てて改善に取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義や項目のポイントを伝えている。全職員に自己評価の書類を配付し、記入したものを管理者がまとめている。評価結果を受けて目標達成計画をたて、救急救命法の講習会や応急手当、初期対応の演習に参加したり、利用者一人ひとりの介護計画や目標を理解して支援しているなど、改善に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1回開催している。状況報告や活動報告をして、助言を受けたり意見交換をしている。(昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。委員に会議資料を送付し電話やFAXで意見交換を行った)	コロナの影響で2ヶ月に1回の文書開催としている。参加者に利用者の現況報告、行事報告、職員の研修報告、事故・ヒヤリハット報告、写真入りの行事報告をまとめた資料を送り、意見や質問を聞いている。議事録は事業所内に設置していつでも閲覧できるようにしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員に2名参加している。報告をしたり意見を聞いたりしている。	市担当者とは、運営推進会議時や書類申請などで直接出向いた時、電話やメールで情報交換を行い協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時の他、日頃から入所の相談などで連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月ごとに身体拘束適正化検討委員会会議を運営推進会議の終了後に委員の方々の協力を得て開催している。また外部研修と内部研修で身体拘束について勉強し正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また職員がストレスをため込まないように日ごろから声を掛け、ケアの大変な部分を共有しアドバイスをし合うよう心掛けている。	職員は「身体拘束適正化マニュアル」をもとに研修で学び、正しく理解して身体拘束しないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には管理者がその場で注意したり、日頃から声をかけてケアの大変さを共有し、職員がストレスをため込まないように配慮している。利用者が外に出たい時は職員が付き添い、一緒に外出することで気分転換が図れるように支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上内部研修で学んでいる。何が虐待にあたるのかを具体的な例を挙げながら周知徹底し、思い当たる場面に遭遇したらお互いに注意しあい、即改善するように努めている。また新採用職員にも個別に説明をしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で資料を参考にして理解するようになっている。現在は対象者なし。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書を読み上げながら説明をしている。疑問、不安等あれば理解・納得をしてもらえるまで丁寧に説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に家族に説明をしている。苦情に対しては入口に意見箱を設置するなど受付体制ができています。毎月の手紙の中や面会時に気付きや要望を伝えやすい環境づくりに努めている。要望等があった場合は職員会議で話し合い解決できるように体制を整えている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。面会時、毎月の利用料支払時、電話時に家族から意見や要望を聞いている。年4回の事業所便りや毎月家族に送っている手紙で、利用者の日々の様子を伝え、家族が意見を言いやすい関係づくりに取り組んでいる。意見や要望はその都度話し合い、連絡帳に記載して申し送り時に職員間で共有して対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議、内部研修のあと職員の意見を聞く時間を設け、意見や提案を話し合うようにしている。また常日頃より話しやすい環境作りに配慮している。	管理者は毎月の職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日頃から話しやすい環境作りに配慮して、日常業務の中で聞いている。職員からは業務内容や苑内で取り組むレクリエーションの提案があり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに管理者が就業規則を読み上げながら説明をしている。必要に応じて上司とも相談し、職員の努力や勤務状況に応じた就業環境の整備に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り外部研修会に参加している。毎月の法人の研修、内部研修にも取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝えて、段階や希望に応じて、業務の一環として受講の機会を提供している。この1年はコロナの影響で参加していない。毎月の法人研修は、身体拘束や不適切なケア、認知症ケアなどに職員が1名参加し、職員会議で復命報告し、資料が閲覧できるようにしている。月1回の内部研修では、認知症ケア、緊急時の介護、コロナ対策、食中毒予防、不適切ケア、タブレットを使用した記録操作などをテーマに管理者が講師を務め、欠席者には資料を配付している。新人研修は法人研修の後、管理者が業務マニュアル、身体拘束指針、利用者の状況を説明し、管理者や先輩職員について働きながら学んでいる。資格取得に対しては受講費の助成や勤務表の調整を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの運営推進会議に出席しあい交流する機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活歴や病気等を把握したうえでしっかり傾聴し、寄り添い、職員や他の利用者と馴染み、職員に要望を伝えやすい環境、関係づくりに努めている。また本人の状態変化にも素早く対応できるようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい環境を整え、ヒヤリングを十分に行いグループホームで安心して生活ができるよう相談しながら支援していくことを伝えている。また小さな異変があったときでも迅速適切に連絡を入れ、信頼関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状態をしっかりと観察し、今どのような支援が必要か、家族が何を希望されているのかを汲み取り必要なサービスを提供できるように心掛けている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で世間話をしたり一緒に家事や食事をしたりしている。また能力に応じた手伝いをしてもらい感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠慮なく面会に来てもらうよう伝えている。面会に来られた時は歓迎し、部屋またはホールでゆっくり話ができるよう配慮している。感染症等で面会ができないときにはタブレットを活用している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見等、地元を含めた外出支援をしている。思い出を引き出せるような会話に努めている。	家族や親戚の人の来訪があり、窓越しの面会やタブレットを使用した面会を行い、職員が間に入って会話を支援している。年賀状や暑中見舞い、手紙や電話での交流を支援して、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性等を配慮した席の調整、レクリエーションへの参加、孤立しやすい利用者への声掛けや一緒に作業できる環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。同法人の特養へ転居された方へは面会に行き声を掛けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることができる利用者は日ごろの会話や関わりの中で思いを汲み取るようにしている。困難な場合は家族や職員と話し合い、本人本位に検討している。	入居時のフェースシートやアセスメントシートを活用している他、入浴介助や食事介助など日々の支援の中で利用者の思いや意向の把握に努め、利用者の様子、気づきと共に生活記録や業務日誌に記録し、職員間で情報を共有している。困難な場合は家族や職員と話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、担当ケアマネからの情報や利用していた施設の担当者からの情報を得て、本人にも話を聞きながら把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、引き継ぎ簿、申し送りで現状の把握をしている。利用者のできること(能力)を発揮できるケアに努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の望む暮らし、要望を取り入れて介護計画を作成している。一人ひとりの目標を職員で共有して支援している。3か月毎にモニタリングを行いケアプランに反映させるようにしている。	計画作成担当者が中心となって、利用者や家族の思いや意向、主治医や法人看護師、職員の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。職員間で利用者一人ひとりの介護計画と目標を共有して支援している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直し現状に応じた介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を記入し、目標に沿った支援ができているか、課題があるかをわかりやすくまとめるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、個別対応もしながら柔軟に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアを活用している。また幼稚園や小学校の運動会にも参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意を得てかかりつけ医を利用し月1回の訪問診療がある。小さなことでもすぐに相談でき、家族の要望にも対応してもらえる。協力医療機関(歯科)もある。	本人、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得る他、事業所が支援し、受診時の情報は口頭で家族に伝えている。法人看護師が定期的に利用者の健康管理をしており、随時職員の相談を受け、助言や処置をしている。緊急時には管理者から担当看護師に伝え、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の特養の看護師に報告、連絡、相談できる体制ができているため、定期的にも突発の際にも適切な受診や看護を受けることができる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーがすぐ提出できるように準備をしている。病院関係者の中で窓口となってくれるソーシャルワーカーと連携し家族とも連絡を取り合って調整している。入院中はこまめに様子を見に行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会時に事業所の対応について家族に説明している。実際に重度化してホームでの生活が困難になった場合は看取りについて家族に説明をして同意を得ている。看取りになった場合には主治医、家族、管理者、職員とで話し合い看取り計画書を作成し、方針を共有して支援に取り組んでいる。内部研修でも看取りについて勉強会を実施している。	重度化や終末期に事業所で出来る対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は家族の意向を聞き、主治医や看護師、職員と今後の方針について話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。職員は内部研修で終末期ケアを学んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が発生した場合は全職員がマニュアルに沿って同じ対応をしている。緊急時は法人の看護師の協力体制を整えている。事故が起こった場合、状況や原因、対策を検討して再発防止に努めている。また事故が起きたときに慌てないよう内部研修で初期対応の定期的訓練を行っている。AEDの実地講習も受けている。	事故が生じた場合は、その日の職員で話し合い、報告書に事故の内容、利用者の状況、原因、対応策を記録して、法人の相談員の助言を得た上で全職員に回覧し、共有している。毎月の職員会議で再検討して再発防止に努めている。事故発生時に備えて、法人の救急救命法の研修に職員が交替で参加する他、内部研修で誤嚥や転倒、骨折、とっさのけがなど頻発する事故への初期対応を学んでいる。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月事業所独自の避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行い、避難方法、避難経路を確認している。また消防署の協力を得て法人全体で通報、消火、避難誘導訓練も行っている。地域住民による協力体制も整っている。	法人全体で通報、消火、避難誘導訓練を行い、職員2名が参加している。毎月事業所独自の避難訓練を実施し、火災の発生場所を変えたり、夜間を想定したり、水消火器訓練を行い、利用者も参加している。居室入口に歩行状態を示すマークを貼って避難誘導時に役立てている。緊急時の連絡網に地域住民一人が加入している。事業所に水や非常食を備蓄している。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各部屋への出入りの際のノックと声掛け、排泄介助、入浴時はドアを閉める、個人的な内容の話は個々にする等を徹底している。また不適切な対応は管理者や気付いた職員が指摘するとともに内部研修で取り上げて接し方を勉強している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時には、その都度管理者が注意し、他の職員から耳にした場合は不適切な現場を見て直接注意している。個人情報の取り扱いや保管に気を付け、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団での作業や行動を強要せず自己決定ができるような選択肢と質問を用意し、思いが伝えられるような雰囲気づくりをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の体調や思いに沿って1日が過ごせるように心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪ができない方は支援し清潔を保ち、着替えも本人の意思を尊重しながら季節に合った洋服を提案している。また2カ月に一度の有料理容を活用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体機能に合わせた食事形態(常食、ソフト食、ミキサー食、ゼリー食)の対応ができる。献立も豊富で行事食もある。利用者と一緒に食事をして家庭的な雰囲気を持てるようにしている。巻寿司やおはぎ等は一緒に作っている。食器洗い、テーブル拭き等できる利用者には手伝ってもらっている。	炊飯と汁物は事業所で作り、後は温めて提供するクックチル方式の食事を利用している。利用者の身体状況に合わせ栄養を考慮した食事形態(常食、ソフト食、ミキサー食、ゼリー食)に対応し、毎月全国各地の郷土食の日もある。利用者は、テーブル拭き、お盆拭き、コップ洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話しながら同じものを食べている。季節の行事食(おせち、恵方巻き、ひな祭り、母の日、父の日、敬老の日、クリスマス、年越しそばなど)、寿司やケーキなど利用者の好みを取り入れた誕生日のお祝い膳、利用者と一緒に作る昼食会(焼きそば、すき焼きなど)、おやつづくり(おはぎ、ホットケーキ、ベビーカステラ、フルーツヨーグルトなど)など食事を楽しむことのできる支援を行っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録を付け職員で共有している。水分は食事以外の時間帯にもこまめに飲んでもらっている。必要に応じては個別に対応している(糖尿病)。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕は職員介入で口腔ケアをしている。必要に応じて口腔ケアスポンジやウェットシートも使用してケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事前や活動前には声掛けをしている。排泄チェック表をつけており、一人ひとりのパターンや間隔を把握し支援している。トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、利用者に応じた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で把握している。こまめな水分摂取、毎日の体操、腹部マッサージで便秘を予防している。それでも改善がみられない場合は主治医に相談している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日曜祝日以外いつでも可能だが、基本13時30分から15時30分までを入浴時間にしていて、本人の同意を得て入浴をしている。体調に合わせてシャワー浴や清拭、手浴、足浴をしている。本人のできない部分だけ介助するようにしている。入浴剤や柚子湯で入浴を楽しめるよう工夫している。	入浴は日曜日以外の毎日、13時20分から15時30分頃までの間可能で、一人ひとりの希望に応じて職員との会話を楽しみながらゆっくりと入浴している。利用者の状態によって、清拭、シャワー浴、部分浴、足浴などを行っている。入浴したくない人には時間をずらしたり、職員を交替して声かけするなど工夫して対応している。入浴剤や柚子湯を楽しみ、入浴後は化粧水など保湿にも配慮している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドを清潔に保っている。好きな時間に横になって休むことができる。入眠も本人の希望時間に応じている。室内温度や湿度、照明にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも処方せんを確認できるように説明書を決まった場所に置いている。薬の管理は職員が行い変更した場合も全員が把握できるように説明している。誤薬防止のため薬ケースに顔写真を貼り、薬を渡す前には必ず名前を読み上げている。また飲み込みも確認している。変化があればすぐに主治医に相談する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、お盆拭き、モップがけ、洗濯物たたみ、塗り絵、新聞雑誌読み、歌、脳トレ、ゲーム、おやつ作り等で楽しい時間が持てるように支援している。また誕生日や敬老の日等の行事でお祝いの会もしている。嗜好による個別メニューにも対応している。	テレビ視聴(歌、相撲、のど自慢、朝ドラなど)、週刊誌や新聞を読む、脳トレ(漢字、計算)、習字、ぬり絵、貼り絵、カルタ、トランプ、カードゲーム、歌(童謡、懐メロ)、輪投げ、玉入れ、風船バレー、健康体操、DVD体操、タオル体操、口腔体操、季節の行事(書き初め、節分、ひな祭り、七夕、敬老会、運動会、クリスマス会、餅つき)、苑内の花見、花壇の花を利用した押し花、フラワーアレンジメント、季節の飾りづくり、誕生会、昼食会、お茶会、おやつづくりなどの楽しみごとを支援している。モップかけ、カーテンの開閉、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミ袋作り、ゴミ袋の名前書き、食事のメニュー書き、野菜の下ごしらえ、お盆拭き、テーブル拭き、コップ洗い、玉ねぎの収穫など、活躍できる場面づくりを支援し、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には周辺の散歩をしている。また月に一度は車で外出し、季節の花見やぶどう狩り、紅葉狩り等に出掛けている。	施設敷地内を散歩したり、施設内の花見を楽しんでいる。花壇の花の水やりや世話、畑の玉ねぎの収穫など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金を所持されていない。必要なものがあれば家族に相談し、持参してもらうか職員が購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話も希望があればいつでもかけることができる。ご家族から季節の絵手紙やお花、プレゼントが届き喜ばれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日の掃除で清潔を保つようにしている。共有空間には次亜塩素酸空間除菌脱臭機と加湿器、各居室には温湿度計を設置し管理している。季節感のある壁面作りや、花を活けたりしながら季節感を取り入れ家庭的で温かい雰囲気づくりを心掛けている。	自然の光が差し込む明るいリビングには、テレビ、電子ピアノ、テーブル、ソファが置いてあり、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる。玄関には職員持参の季節の花や季節のものを飾っている。壁面は季節の飾り物、行事の写真、カレンダーなどを飾っている。グッピーの水槽をおいて眺めて楽しんだり、目につく所にぬり絵や雑誌を置いて手に取れるようにしている。キッチンからは調理の匂いや音がして生活感を感じることができる。温度、湿度、換気、音、明るさに注意して居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自室でゆっくり過ごすことができる。お互いの部屋の行き来もできる。ホールにはソファもあるので好きな場所で過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みの家具や物を置いてもらっている。自室内の配置は本人と家族に相談しながら設置している。ホームで作った作品や写真等を飾って居心地の良い空間づくりを心掛けている。	テレビ、衣装ケース、衣装掛け、タンス、三段棚、イス、置き時計、クッション、アルバム、化粧品など使い慣れた家具や好みのものを持ち込んでいる。家族の写真や家族の手作り作品、フラワーアレンジメント、ぬり絵や押し花などの自分の作品、届いた暑中見舞い状や年賀状を飾って本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具は最低限にして移動を妨げないよう心掛けている。利用者が迷わないよう場所の確認のために「トイレ」「風呂」と書いてあり迷わないようにしている。またホールの席、自室のドアにも名前がわかりやすく記載されているので自分の居場所として把握している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム天王園

作成日: 令和 3 年 10 月 1 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故が発生した場合は、マニュアルに沿って対応をしている。また、月に一度の職員会議で再検討をして事故の防止に取り組んでいる。しかし、様々な場面で緊急を要する場合があるので、慌てないよう初期対応の訓練を継続的に実施する必要がある。	職員が応急手当、初期対応の実践力を身に付ける。	①外部研修に参加し最新の正しい緊急時の対応を身に付ける ②月一度実施される職員会議の中で正しい緊急時の対応、応急手当の演習を定期的に行う（誤嚥、怪我や骨折、発熱等） ③事故発生時の対応マニュアルの見直し	1年
2	34	看取りとなった場合、主治医や看護師、職員間で今後の方針を決め、共有して支援に取り組んでいる。しかし、看取りに対する不安があると同時に他の入居者の対応もしなくてはならないので身体的・精神的負担を感じることもある。	看取りに対する前向きな認識を持つ。	①内部研修で看取りについて勉強し、正しい知識を身に付ける ②職員間で情報を共有して同じ対応するため、マニュアルを作成 ③不安や悩みを抱えていないか管理者が意識して声かけをする	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。